外注化阻止ニュース　第８０３号

〔発行日〕２０２６年１１月１１日
〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://www.geocities.jp/dorosien28

ＪＲの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。info@doro-shien.site

NTTがグループ間「転籍」を制度化

ＪＲ東の「詐欺雇用」と同じ狙いだ！

ＮＴＴは、グループ会社間での従業員の転籍を制度化し、**国内従業員の過半にあたる10万人を対象**にすると発表しました。従業員が自らのスキル、経験、キャリア志向を登録する仕組みや、スカウト制度を導入し、人材の流動性を高めて戦略分野に重点的に配置すると説明しています。「社内労働市場をつくる」とも論じられています。

この制度は、経団連が25年版の経労委報告で掲げた「内部労働市場と外部労働市場がシームレスに接続した社会をつくる」という方針を具体化したものです。「若手は転職を前提にしているから労働者のためになる」といった語られ方もされています。

狙いは「転籍強制」と「解雇自由」

しかし、その狙いは、会社の都合でいつでも転籍を強制し、自由に解雇（＝「転職」の強制）できるようにすることにあります。雇用契約を結んでも就活中の労働者と変わらず、いつでも放り出されるということです。これは断じて許すことができません。

ＪＲ東日本が狙う「詐欺雇用」

ＮＴＴの制度は、ＪＲ東が狙う「詐欺雇用」を具体化したものでもあります。雑誌『選択』は、喜勢社長の発言として、グループ会社の要員不足をＪＲ東で雇った労働者の出向で埋める考えを報じています。

> 「（ＪＲで多く採用して）出向でグループ会社やパートナー会社を回していくのも考え」
> 「頭数がいないから、どこかで採って回していくしかない」

つまり、グループ会社では採用できないため、「ＪＲ東日本」の看板で採用して即出向させるということです。まさに「詐欺雇用」です。

「社員が主役」の裏にある本音

ＪＲ東は「社員が主役」と述べ、経営ビジョン「勇翔２０３４」でも「働きがいと成長の実感」「新たな挑戦を通じた成長」「活躍フィールドの拡大」を掲げています。

しかし、会社に社員のためという意識がないのは明らかです。本音は、社員を備品の一つとみなし、勤務地も業務内容もすべて会社の自由にしたいということにあります。

＊

会社は、人事・賃金制度の抜本的改悪、融合化、検修業務の全面外注化、全路線でのワンマン化など、許しがたい攻撃を次々と進めています。これと対決し、鉄道の安全と仲間の権利を守る力は、職場からの団結した声と闘いです。今こそ職場に闘う労働組合を取り戻しましょう。